

第2回福光地域学校統合検討委員会（会議記録）

【日時】令和6年12月2日（月）開会：午後7時00分 閉会：午後8時28分

【場所】南砺市役所 別館3階大ホール

【出席委員】 齋藤 史朗 委員長 得能 金市 副委員長 渡邊 美和子 委員（代理）
高瀬 須美夫 委員 中田 健一 委員 高倉 寛明 委員
富田 新之介 委員 高田 智洋 委員 林 裕一 委員
嶋 潤之介 委員 石黒 梢 委員 森田 泰将 委員
海木 有紀 委員 日光 司 委員 戸成 博宣 委員
船藤 幸輔 委員 舘 英二 委員 坂本 博昭 委員
久惠 文子 委員 高田 公美 委員 水口 賢 委員
田嶋 原子 委員

【欠席委員】平野 信一

【事務局員】 教育長 松本 謙一 教育部長 氏家 智伸
教育総務課長 上野 容男 総合政策部こども課長 溝口 早苗
教育総務課副参事 山本 佳和 教育総務課副参事 金谷 諭
教育総務課主幹 山田 浩司

【会議要点】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ 齋藤委員長
- 3 協議事項
 - (1) 福光地域学校統合案について
事務局から、福光地域学校統合案についてあり方検討委員会の提言書に沿い3パターンを提案した。パターン1：小学校一校、中学校一校、パターン2：小学校二校、中学校一校、パターン3：義務教育学校を福光中学校校下1校、吉江中学校校下1校
 - (2) 今後のスケジュールについて
1月中旬に、三つの小学校校区において、上記3パターン案について事務局が地元説明会を開催する。その説明会の後に各団体において意見をまとめ、次回開催する第3回検討委員会において協議を行うこととする。
- 4 次回委員会の日程 令和7年3月中を予定
- 5 副委員長あいさつ 得能副委員長

【会議記録詳細】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ

(委員長)

本日は教育委員会の方から統合案及び今後の日程が示されます。資料を参考に、この福光地域として将来にわたって最も望ましい方向性を見いだしていければなと思っており、資料を基にそれぞれのお考えご質問等を遠慮なく述べていただければありがたいなと思っております。

3 協議事項

(1) 福光地域学校統合案について

福光地域学校統合案を資料1と参考資料に基づいて事務局から説明

(教育長)

今日ここで一つに決めるということではありません。この後、各団体この案を持ち帰って、それぞれの団体で意見を集約してもらうための原案として、この案で良いかということをお話ししていただきたいと思います。

(委員長)

ただいまの説明についてご質問ご意見がありましたらよろしくお願い致します。

(委員 A)

1 ページ、現行の状況について、福光南部小学校は統合になると、100 人のうち福光中部小学校、福光東部小学校にそれぞれ何人ずつ転入する予定ですか？

(事務局)

資料5 ページ福光中学校区、吉江中学校区の上に福光東部小、福光南部小、福光中部小、福光南部小という形で各小学校の内訳が記載してあります。南部小は、校区が両方に分かれるが、特認校制度を用いれば、現在はどちらでも学校を選べるという状況になっています。

(委員 B)

この福光地域学校統合検討委員会は、令和11年に南部小学校が複式学級になるので、その5年前から協議を開始するというので、令和6年からスタートしたわけですが、統合の時期については、何年度くらいをイメージしているのか確認したい。

(教育長)

基本的には、5年後だと思っている。今回の場合は福光地域全体になるので、まず子どもたちにとって小学校二校、中学校一校の環境が良いのか、小中それぞれ一校が良いのか、または義務教育学校が良いのか。それをまず検討していただく。次にどの校舎を使うかを検討する。その後にこの委員会で一番良いと思う時期を決めていただいても構いません。すべての子供にとって一番良い時期であれば、小学校と中学校の統合時期がずれても構わないと思っています。方向性が決まりましたら、教育委員会から時期について案を出したいと思います。

(委員 B)

パターン2やパターン3を見ていたら、じきすぐに単級になりますので、ある年度で統合して、2、3年経ったらすぐ単級になるっていうのは、好ましくないのかなと感じます。

(委員 C)

1 ページ目の統合案の前提条件の4番で、統合等に要する改修等の経費を検討材料としないというのは、今回の提出された統合案については、検討しないということによろしいですか。今後、この委員会が進んでいくにあたって、そういったことも検討することになるのか。

(事務局)

今回の統合案を出すにあたって、検討材料としていません。また、今後この検討委員会を通して検討材料としないという理解で構いません。

(委員 C)

大規模な増築はしないという話だが、パターン3で吉江中学校区は福光東部小学校校舎を義務教育学校として使用するとあるが、多分足りないのではないかなと思っていて、福光東部小学校にはないような部屋が、例えば更衣室のような部屋が必要となった時に増築することとは考えられるのかどうか。

(事務局)

現在の校舎の中で対応可能と考えています。場合によっては、入れる時期まで統合を先延ばしするという可能性もあります。必要な改修は行うが、増築新築はしないという理解をお願いします。

(委員 C)

義務教育学校になった場合、校舎を一つにまとめる必要があるのかどうかというところなんですが、福光中部小学校と福光中学校、福光東部小学校と吉江中学校とは距離が結構近いので、分離型も可能なのかなと思います。

(事務局)

分離型ということも基本的にはしません。

(教育長)

公共施設再編計画の中では、教育施設については無理に再編するという事は無いとされているが、できるものを敢えて二つ残すということは考えられません。一体型でいきたい。

(委員 D)

義務教育学校について、一般的なメリットとデメリットを説明いただいた。つばき学舎と利賀学舎で具体的な意見が出ているのか。情報というのはお持ちでしょうか。

(事務局)

次回まとめて、お知らせしたいと思います。

(委員 D)

城端地域の話も出たが、城端地域の考慮をしなければならないのか。並行して考えていくのは大変だと思うが、城端がぜひ福光と一緒に協議したいとなった場合、こちらの意見をまた変えなければならないのか。

(教育長)

全体の学校のあり方検討委員会でも、まずは地域で決めることを優先するという約束にな

っています。従って、妥協する必要はないと思っています。

(委員 D)

例えば、先に城端地域が福光地域と一緒にやりたいと言ってきた場合はどうか？

(教育長)

その時点でここに話をもってきます。基本的にそれぞれの文化を大事にしていくという方針だったので、それで福光がノーと言えれば話にならないと思っています。ただし、その方が望ましいというのであれば、そういうやり方あるかもしれません。

(教育長)

一点資料の補足をします。教員数なのですが、資料には法定の教員数を書きました。小と中にしたら減るように見えるが、実際は、加配と言って、数人の教員が増えます。義務教育学校はまず増えないというふうに思っただけならば。ですから、義務教育学校になると教員がたくさん来てよくなるという意味ではない。全体の合計はきっと義務教育学校の方が多いかもしれませんが、資料ほどに差はないということです。

(委員 E)

まず数字だけで見ると、義務教育学校二つにした場合。今までと同じで、吉江校区と福光校区で、中学校にしても小学校にしても児童生徒数は変わらないですよ、そうすると、パターン2のようにまず中学校を一つにして小学校二校にすると中学校の方で検討会をした際に次のような意見がありました。

この先、僕たちの子供たちないし若い子供たちが、十年後とかに、例えば結婚したりした場合、市内に残ってくればいいんですが、それが砺波市や近場の金沢市に出て行ってしまって、そこで家を建ててしまったりすると正直、南砺市には戻ってこないことになります。そ富山県の中でも高岡、富山、砺波市など、もともと市のところに人が集まってしまって、南砺市が魅力のない市に思われてほしくないんですよ。だから、親が子供を育てる場合に、人数が減ったとしても南砺市に育ててほしいというか、南砺市は、自然も豊かでとても良いところなので、学校統合についても、市にできるだけ人を残すような方向で考えていけたらと思います。空き家も増えてますし、できるだけその家族単位で流出することを防ぐ、残ってもらえるように考えていってもらいたいと思います。

(教育長)

本当にそうしたいと、市も教育委員会も取り組んでいますので、また皆さんのアイデアを教えてください。子供たちがここで住みたいと思う教育をしたいと思っています。

さて、先ほどの学校の数についてですが、大きく分けると、二クラスあったらクラス替えができるということです。小学校は単級で、中学校はクラス替えがあればいいのか、全部クラス替えがあればいいのか、または、全部単級が良いのかというようなことも含めて、福光の子供にとって良い判断をしていただければというのはこういう趣旨であります。今後、皆さんの各団体の多くの方から意見を集約してもらって手続きを踏みたいと思います。

(委員 D)

もう一点、お聞かせいただきたいのですが、先ほど義務教育学校には分離型があるという話もあった。例えば福光中部小学校と福光中学校で分離型で福光地域で一つの義務教育学校にするというようなパターンは考えてはいないか。

(教育長)

いわゆる富山市水橋地区のように福光地域全体で義務教育学校を一つにする。それはもちろん可能です。

(委員 D)

今はその五年後を考えての、協議ですが、また十年後かはわかりませんが、同じようなことはまた起こります。先ほど言われたようにクラス替えの件がありますし、最初から一つにしておけば、延命措置ではないですけどもしばらくは二クラスないし三クラスぐらいで可能でないかなと思います。

(教育長)

委員の皆さんの中でも同じように、福光地域の義務教育学校を一つにしたら良いという意見がありましたら、その案を第四案として追加して地域に図りたいと思いますが、いかがでしょうか。その場合は、今すぐに一つの学校に全児童生徒を集めるには校舎の規模的に難しいので、分離型でやるということになります。

(委員 F)

保護者から聞こえてくるのは、そもそも 30 数年前に福光中学校、吉江中学校が出来た時も、その段階で一つにしておくべきではなかったのかというような意見も中学校の方にはあります。この先、南砺市が活気あふれる町になることを間違いなく、皆さん望んでおられる。しかし、果たしてこの三パターンのうちのどれかにしたとしても 20 年後、30 年後、また同じような話し合いになるのではないかなと若干危惧してます。

(副委員長)

私は福光東部小学校が整備が終わり、そして中学校を 2 校で整備するという時の、桃野町長さんの時代に、中学校一校にしてくださいと、部活はなくなりますよということも話をしたのですが、いやいや、今のうちに校舎は建てておかないと将来危ないということでした。ですから、おっしゃる通り子供たちに対して本当に良かったのかどうかというのは疑問なところがあるわけです。現実にはあれから 30 年すぐ経ちます。ですから、30 年前とはまた違って来るんじゃないかっていう話も出てくると思いますし、今統合しておこうということも正論です。ただし、これは人口減少から始まった話で、こういう田園地帯で、個々の非常に素晴らしい教育環境を持ちながら、統合という形に持っていくかどうかということ、ここはやっぱり決心しなければならぬと思います。東大の養老孟司もこの少子化は 50 年後ぐらいでないと止まらないと言ってます。やっぱり子供が中心なんです。ここをしっかりと議論しないとダメだと思いますよ。教育長どうですか？

(教育長)

今の意見で言うならば、将来のために何かするというよりは、今を生きている子供のため

にやっついこうというのは、まさに南砺市で考えていることです。今予想される中で、27年後ぐらいに福野中学校が新築しないといけない可能性が出てくると、その時にどの程度の人数になっているかで、その30年後のあり方をまだその時に生きている子供にとって一番良いものと考えれば、将来こうなるから今の子供を犠牲にしてこうしようというのではなくて、今を起点に一番いい環境を作っていきたいというのは教育委員会の考えです。全体のあり方検討委員会もそうでした。

(副委員長)

これ一番コンセプトとして大事なことなんですよ。そうでないと2回も3回もこんなことやらなんですよ。ここはやっぱり確認していただきたいと思います。

(委員長)

確かにここに出ている数字というのは今生まれている子供たちの数ですから、その将来、来年何人生まれるかは、それは予想でしかないわけですから、検討の資料としては、現在の子供を見ていくべきだと、おっしゃる通りだと思います。

(委員H)

今、出ていない案ですが、私はかねてから思っていることがあります。個人的な意見ですが、中学校は、今、城端地域の方も案として福光地域と統合しても良いというような意見も出てると聞いています。児童生徒の少ないところからだんだん危機感を持って、どっかにくっつかなきゃみたいな感じになっていく。これが南部小学校の場合は、もう統合すると分かるとは言っていますけれど、それが中部小学校、東部小学校と同時にするのか、それともどこかにくっつくとか、そういうような進め方でいいのかどうかというのは、私はとても疑問に思っています。小学校は、公共施設再編の方向性を無視して申し上げると、できれば地域に残すべきだと思います。地域に小学校は残すということは、提言書でも書かれていて、福光の場合は複数あるので、こういう議論になっているということも承知していますが、地域の環境を思うと、本当は、中部小学校も東部小学校もあった方が良く単純には思います。ただ、中学校は、部活も苦肉の策で拠点校にしていますけれども、それもすっきりした解決案では決して無いとされていて、中学校の場合は、義務教育学校の賛否もちょっと関係あるのですが、いずれは高校に行くので、地域だけに縛られない社会性を育むということが中学校の環境として一番大事なことでもあると思っています。そうすると例えば、ちょっと乱暴な案かもしれませんが、中学校を市全体で二つぐらいにしてくくっていくとか、そういうことを案として考えると、施設の問題が先に来るんでしょうけれども、将来を考えて、また児童生徒が少なくなると、近いところからくっついていくみたいな感じになると、地域の引っ張り合いというか、綱引きみたいなことも生じてきますし、大人のそういう感覚もあって、子供の方もやはり小さいところになるとなんだか大きいところにくっついていかなきゃいけないみたいな思考回路になる。もう少し中学校を南砺市全体としてどうするかっていうことを考えていった方が部活とかも成り立っていくでしょうし、そういう案は、可能性として考えていらっやらないでしょうか。私は、先に中学校は一つか二つとかにする案をバンと出し

て、地域の小学校を残していきましょうという考えにするとすっきりするような気がしていたので。その可能性があるのか無いのか、皆さんどう考えるのかっていうのは前提として議論すべきじゃないかなと思っています。

(教育長)

それについては、あり方検討委員会で皆さんが出された結論はこれだったわけで、委員の総意はこの方向だったので、これをお願いしたいということです。これは、あり方検討委員会の提言が一番子供たちにとって良い方向じゃないかということです。

(委員 I)

皆さんご存知のように南部小学校は、小矢部川を境に福光地域と吉江地域に分かれてしまうので、私も南部小学校の卒業生なのですが、大変悲しい思いをしました。なぜ六年間一緒に過ごした仲間と離れ離れになる必要があるのかと。今、こどもの数が減ったからこそ別れてほしくないのです。あくまで子どもの意見です。六年生の意見を聞いていますと吉江中学校に行くという声が多数聞かれます。そうすると自ずとパターン2に向かっているような気もするのです。このままですと、福光中学校に進む子がますます少なくなって吉江地区にだんだん子供が集まっていくと。そのような方向にならないように、南部小学校が離れ離れにならないような環境をぜひ作っていただきたいのです。

(事務局)

南部小学校の卒業生が中学校で離れ離れになるというのは、以前は確かにその通りでした。しかし、特認校制度を使っていれば、皆さん一緒の学校に行くことも可能です。そういうことも含めて、この統合、学校数がどうあるべきかということを、皆さん意見を交わしていただければと思います。

(委員 B)

南砺市立学校のあり方検討委員会に参加していたものとして、少し意見を言います。実はその会で義務教育学校の話が出た時に、井口、平・上平、そして利賀地域が義務教育を選ばれたことは山間地域ということもあって、人数もある程度限られているので、それは仕方ないし、そのように住民が選ばれたので、それは良いだろうと。ただし、城端、福野、井波、福光においては、義務教育学校というよりも小学校は小学校で残しながら、そして中学校もどうやっていくかを検討して、義務教育学校とは別のこれまでのパターンを大事にして進めていけばどうかという話が出てきて、今日に至ったと思うので、今話題になっているパターン1からパターン3までと、そしてさらにパターン4で義務教育学校一校はどうかという話がありましたが、パターン4はなくても良いのではないかと思います。

(副委員長)

戦後から昭和平成にかけて、教育制度の中で中学校が一番単位になるというのは、明治以来の制度から変わっていないわけです。そうすると、中学校校下単位をもっと大事にしないと減びます。小学校はついてきます。中学校を何校にするかっていうのを先に議論しないとダメです。文部科学省がコミュニティスクールっていうのはその話なのです。中学校と

いうものをどう考えていくかということが、我々の使命だろうと思います。最終的には子供たちのことなのですが、もう少し共通の理解はないと、もう少し創作するようなことはできないですかね？

(委員長)

ここに出ているパターンというのは、考えられる案っていうことで出ているわけです。なので、先ほどのようにまだ他に良い案があるのじゃないかという意見もあったりするので、この後、次の資料2に関連して、今後の進め方を検討する中で今この議論も続けていけばどうかと思います。

(2) 今後のスケジュールについて

(事務局)

資料2に基づき、今後のスケジュールを説明。

今ほど説明した、パターン1からパターン3について、福光地域の皆さんのできるだけ多くの方にお話を聞いていただいて、皆さんで考えて頂きたいという部分がありますので、今後の進め方について確認をさせていただきます。まず1番、第1回の検討委員会での決定事項として、児童生徒にとって、より良い教育環境となることを第一に考え、学校統合を検討することを前回お話しさせていただきました。その中で手順は、統合後の学校数を決める。次に、統合後に使用する校舎を決める。そして、統合の時期を決めるとしています。この手順を踏まえて現在、学校統合後の学校数を決めるという段階ではありますが、本日三パターン提示させていただきました。パターン4があるということであれば、そのパターン4も含めて、教育委員会が福光中部小学校、福光南部小学校、福光東部小学校の三校区に行って説明をしたいと思っています。説明後にその場で意見交換会を開催していただければと考えています。日程は、令和7年1月後半を想定しています。会場にきましては、各小学校で行いたいと考えています。具体的な進め方としては、教育委員会から統合案の説明と質疑応答をした後に、団体ごとに教室や会議室に分かれて意見交換会をしていただいて意見聴取をしていただく。

日程調整については、各小学校のPTAと教育後援会を中心として行います。各小学校の校長先生には、12月20日頃までに開催日を決めていただいて、年末には皆さんにご案内できるかと考えています。

福光地域全体で一つの団体又は中学校区についても小学校の三校区とは合わない部分もありますが、調整の上、いずれか一箇所に参加いただきたいと思います。

この3回の説明会で不足するようでしたら、個別の説明会も検討させていただきたい。

(副委員長)

義務教育学校を複数の校舎を使ってやるという方法について、これは校舎を考えた話ですから、ありだとは思いますが、その件についてこれまで南砺市立学校のあり方検討委員会審議しているのですから、それを覆すような話が出た場合、どうするんですか。せつかく5年

間もやってきた話に対して、それこそ混乱起こします。このところをしっかりとルールを作りしてください。整合性を持って出してほしいと思います。

(事務局)

あり方検討委員会の提言書に沿うと、この三パターンが考えられるということで、今回提案させていただいております。

(教育長)

それを含めて第四にするべきなのか、それを今日決めていただきたい。

(委員E)

第四案として義務教育学校を地域に一つ作るという案ありましたが、いきなり一つにするという案は自分も利口ではないと思います。部活動が今年度から地域移行始まっていますが、それは、正直良くはないと思います。中学校が一つになれば、南部小学校の生徒が離れ離れになることはない。中学校の人数も増えますし、そうしたら部活動が復活するというのもあるのか、それは、南砺市全体の話なので、わからないですけど、小学校よりも中学校の人数を重点的に考えた方が良くというのは、今皆さんの意見を聞いて思っています。義務教育学校にするという第三パターンがありまして、吉江中学校校下と福光中学校校下に作ったとしても、最終的には統合という形になって一つになるということがありえます。今現在は第四パターンはいらないと思います。

(委員J)

私は、前回の会議の中でも、東太美が二つに分かれるから、中学校を一つにしてほしいという要望を出していますが、その時期がいつかということが一番問題ではないかと思っています。中学校を先に統合してしまえば、一つは解決するのじゃないかなと思いますので、早急に中学校を統合してほしいと私は思います。

(委員D)

パターン4については、選択肢は多い方が良くと思ったので発言させていただきましたが、最初からパターン1, 2, 3どれにしましょうという決定方法のほうが私たちも考えやすいと思うので、方向性を示してもらえたらと思います。

(委員長)

今、パターン1, 2, 3に絞ってというようなご意見だったと思いますが、この後、それぞれの校区で教育委員会からの説明の後、意見聴取を行う。今現在ここで示されている資料がそれぞれの地区の皆さんに示され、そこで出てきた意見をここにおられる方々で取りまとめ、次回、皆さんに示していただくという流れですよ。

(事務局)

資料2の説明を最後までさせていただきます。統合案を説明した後に、その際出た意見や、後日会議などを開いていただき、各団体等での意見集約をお願いしたいと考えています。それをもって、次回統合検討委員会の資料とさせていただきたいと考えています。意見集約については、2月末ぐらいまでに事務局の方へ提出していただければと考えています。

(委員J)

説明会には、地元から人に来ていただいてもいいですか？

(事務局)

校区ごとの説明会ということになりますので、校区にお住まいの多くの方々に来ていただきたい。

(委員H)

私の住む地区でもお子さんを持つ親御さんの意見を知りたいという声が多くて、その意見を受けて、団体としての意見を提出したい。ですので、この説明会の後に団体としての意見をまとめるという段取りにさせていただいた方がありがたい。

(委員長)

説明会の後、参加いただいた方全員で色々な意見を出し合う機会を持つと。さらにもう一歩進めるためにそれぞれの団体で意見集約する場を持つということですね。

(教育長)

説明会の場では多様な立場の人の意見を聞き合うようなことを大事にしてやるということですね。そちらの方が良いと思いますのでそのようにします。

(事務局)

説明会には、皆様に提出した統合案の三パターンに絞ったものを修正して、これを説明会に参加される皆さんにお配りして説明をするということになります。

(副委員長)

各団体は、イニシアチブをとって市に結論を上げていくということですね。それなら我々好きなこと言えます。それでよろしいか確認しておきますよ。

(委員長)

説明会で出た意見にプラスそれぞれの団体からの意見を取りまとめて委員会へ提出するということですね。

(事務局)

説明会当日に出されたご意見については事務局でまとめますし、各団体の意見も出していただいとこと。各団体については、この三か所の説明会に出ていただければ良いですし、独自でやられる場合は独自の会議をお願いしたいと思います。

(教育長)

説明会については、広く告知させていただきたいと思います。

(事務局)

全戸配布の中に三パターンも含めた概要的なものを載せて、これについて説明しますということを皆様にお知らせするような形にしたいと考えます。文面に具体的な統合案が出るのであれば、関心を持っていただけたらと思います。

4 次回委員会の日程

(事務局)

次回の委員会については、令和7年3月中の開催を予定しています。

皆様にまとめていただいた意見について、次回、意見交換をするということを考えています。現時点ですぐ統合案が決まるというようなことはないと思っています。

5 副委員長のあいさつ

(副委員長)

結論が簡単に出るような会議ではございません。これで、地元に戻って説明する、又は当局が説明すると思いますが、これは本当にキックオフのキックオフでございます。色々な議論が出てくると思います。それは当たり前のことなのでそれはやっぱり真摯に聞いてですね。我々はそれ反映をして、当局にお願いするということでございます。

先ほど言いましたように何よりも子供大事ですけれども、やっぱり財政的に問題なんですよ。これ経営成り立たない話から来てるわけですよ。これは若い人たちも分かってほしいと思いますが、我々も政府の行政改革とか、色々なところ出とります、やっぱりそうなんですよ。やれるぐらいならやりたいんですよ。だけど、できないですよということをしっかりと念頭においてですね。我々は真剣に、後世の人たちに子どもたちに憂いを残さないように頑張りたいと思います。

(閉会)